

2017年度 シラバス情報表示画面

科目コード : 93014 単位数 : 4

科目名	日本史	科目責任者	開沼 正
課題と試験担当教員	開沼 正		
履修方法	T テキスト学習		
ナンバリング	CTETC242		

■ 科目概要

原始から現代までの歩みを、めまぐるしく変遷した政治形態に注目しながらその原因と結果を押さえられるように構成している。まず原始・古代と中世と近世と近現代に分ける基準は何かを把握することが日本史理解の第一歩となる。

政治史だけでなく、これに関連する経済史、司法制度史、思想史、民衆の動向、文化などの特質を押さえることも重要である。そして私たちが生きる現代社会にあっても、けっして日本の歴史の出来事や人物の事績が無関係ではなく、教訓として、生きる上の参考として、さらには明日の日本のあるべき姿に心が及ぶような学習の姿勢を身につける。

■ 到達目標

まず教科書を熟読し、未知の事項には線を引き、二度目はその箇所をもう一度読み、歴史の知識をさらに増やしていくことが望まれる。

そこから特に興味のある出来事、人物などを深く学ぶため幅広い学習に踏み出してほしい。それが教養から研究へのステップアップとなる。次の段階では、出来事、人物について教えられる域にまで達するよう、文章化、プリント作成、年表作成などいろいろと工夫しながらやっていく。それによって歴史の醍醐味に触れることができる。

この科目はそういう研究、教育の好材料が豊富にある。そして私たちが生きる現代社会にあっても、けっして日本の歴史の出来事や人物の事績が無関係ではなく、教訓として、生きる上の参考として、さらには明日の日本のあるべき姿に心が及ぶような学習の姿勢を身につけることができる。

■ 科目の計画・内容

学習範囲 該当する章など	学習内容
はじめに	歴史を学ぶ意義とは。創立者の歴史観について。
第1章第1節	邪馬台国について考える。畿内説か九州説か。 考古学の年代測定法について学ぶ。
第1章第2節	日本という国はいつ成立したのか。 天皇という位はいつからだれから始まるのかを押さえる。
第1章第3節	藤ノ木遺跡という事例を通して、遺跡・遺構・遺物など考古学の発掘調査とその研究を学ぶ。
第1章第4節	古代、貴族政権を中心として進められた奈良と平安の国づくり、またその組織・制度を学ぶ。
第1章第5節	奈良の文化＝天平文化を象徴する東大寺大仏について、当時の仏教界の現状、天皇と藤原氏の動向、東アジアにおける日本の立場などを学ぶ。
第1章第6節	平安仏教の双璧ともいえる最澄の天台宗と 空海の真言宗の内容を学ぶ。
第1章第7節	古代から中世へと変遷する上で、平安中期の武士の発生は重要である。その発生についてさまざまな学説があり、いまだにゆれている。
第1章第8節	武士の力が時代を動かす事を見せつけた保元・平治の乱から平家の台頭への経緯を追っていく。
第2章第1節	中世とは何か、古代とどうちがうのか、また鎌倉・室町時代の武士政権の推移を把握する。
第2章第2節	源氏三代の政権とその特徴。なぜ源氏から北条へと政権が移ったのか確認していく。
第2章第3節	北条はなぜ将軍にならなかったのか、執権という立場が何を意味するのか、北条政権の特徴をつかんでいく。
第2章第4節	武家の最初の法律ともいべき御成敗式目の内容をつかむ。事例として日蓮が受けた「竜の口の法難」のさい御成敗式目はどのように帰納したのか、しなかったのかを検証していく。

学習範囲 該当する章など	学習内容
第2章第5節	日本最大の権力者といわれる足利義満の政治を考える。南北朝時代を終わらせ、日明貿易で経済基盤を確立し、圧倒的な力を背景に義満がめざしたものは何か、そしてその死後、息子の義持はどうして父親の業績を評価しなかったのか、考えていく。
第2章第6節	室町文化は北山文化と東山文化が開いた。 その中で北山文化の代表的文化人である世阿弥をとりあげ、室町時代の文化の特徴、当時の一般社会の様相を把握していく
第3章第1節	守護大名の時代から戦国大名の時代へと混乱する社会に終止符を打った信長・秀吉の事績を改めて検討する
第3章第2節	徳川260年の長期政権を確立した徳川家康―秀忠―家光の3代将軍による幕府の諸政策を押さえていく。
第3章第3節	江戸幕府の懸案事項は大名と民衆と仏教の統制にあった。特に民衆を統制するために仏教をも封建制の下に組み入れ、檀家制度というシステムを敷き、成功させている。その檀家制度の実態と問題点を検討する。
第3章第4節	享保の改革、寛政の改革、天保の改革の三代改革の内容、特徴、その成否をつかむ。
第3章第5節	江戸時代の文化は元禄と化政文化が代表的である。それぞれの文化人、特質、違いなどまとめていく。
第3章第6節	江戸時代を代表する文化人である葛飾北斎と歌川広重をとりあげる。またその代表作ともいえる「富嶽三十六景」と「東海道五十三次」についてさまざまな角度から、学んでいく。
第3章第7節	幕末における開国論・攘夷論・公武合体論などどのような経緯の中で生じ、推移していったのかを把握する。
第4章第1節	明治維新・護憲運動と日清・日露戦争、第一次世界大戦という近代の政治史を学ぶ。 さらに第二次世界大戦、戦後の政治史についてもその経緯を中心に把握していく。
第4章第2節	大日本帝国憲法の内容をしっかり押さえる。天皇の位置づけなど現代との関連の中でとらえる視点が重要となる。
第4章第3節	近代、現代の経済史を学ぶ
第4章第4節	戦後の自民党政治を概観する。安保条約締結に至る経過と、その持つ意味を現代の米国との関係を考える力を養う。
第4章第5節	戦後の経済の歩みの中で高度成長経済、バブル期、その破綻、消費税の導入など、今ときわめて関係の深い経済史を学び、明日の経済政策に心を馳せる学習をめざす。
第4章第6節	憲法改定というまさに直面する課題について日本国憲法の内容とその問題点など深く考える学習が望まれる。
資料編	明治5年以前日本は旧暦を用いていた。そのしくみをしっかりと理解することは必要不可欠である。旧暦・旧国名など基礎知識として押さえておきたい。

■ 学習方法・評価

種別	評価基準
試験	教科書をよく読み理解しているかが基準となる。
レポート	時間をかけて調べ学習を確実にすること。参考文献を挙げること。1200字にとらわれずできるだけたくさん書くこと。

■ 評価方法

- 科目試験：70%
- レポート：30%

■ 教科書

書名：歴史 改訂版
著者名：小山満他
出版社名：創大通信教育部
出版年：平22.4
版：改訂版
刷：
ISBN：978-4-86302-045-0

■ 参考書

国史大辞典 吉川弘文館(図書館には必ずあるので、人名・歴史用語をしらべるために利用する)
高校の日本史教科書(なるべくあたらしい年度のもの・概略をつかむのに最適)

■ 履修上のアドバイス

かつて学んだ歴史と最近の学術的な成果による歴史の違いに着目していく。今を生きる自分の生き方と歴史上の出来事・人物の事績がどう関わるのかにも思いを馳せて学んでいく。

■ 自習時間

合計80時間。

教科書を通して読む(新たに知った知識に線を引き、そこをもう一度読み返す) - 30時間

試験勉強(試験範囲をしてしているので最低3回熟読し、ポイントを中心に書いて覚える) - 10時間

レポート作成(テーマに関連する概説書を最低2冊以上読んでほしい。その上で自分の考えがレポートで論じられるように努力する) - 40時間

■ 担当者のプロフィール

仏教大学大学院文学研究科日本史学専攻修了
博士(文学)